

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【 みよし市立黒笹小学校 】

1 実践テーマ	【I・III・V】
2 実施対象者	3年1組 26名 3年2組 27名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 総合的な学習の時間 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>自国で開催されるパラリンピックについて、実際に行われる競技の体験や選手との交流から、パラリンピックにこめられた多様性を尊重する心を学ぶとともに、スポーツを通して、仲間とともに作戦を立てたり、ルールを考えたりしながら、誰とでも助け合う心やコミュニケーションを深めるきっかけとする。</p>
5 取組内容	<p>1 東京2020パラリンピックを見てみよう</p> <p>(1) パラリンピックってどんなものかな</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『I'm POSSIBLE』の活用。</li> <li>・パラリンピックについてより詳しく知りたいことについて、タブレット端末や図書を使い、調べた。</li> </ul> <p>(2) 分かったことや驚いたことを交流しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が調べたことを聞き合いながら、オリンピックとパラリンピックとの違いを明らかにした。</li> <li>・パラリンピックには障がいをもっている方が、たくさんの人々に支えられながら、様々な道具を使い、一生懸命プレーしている様子が分かった。</li> </ul> <p>2 パラリンピックスポーツについて学ぼう ～パラリンピアンと交流しよう～</p> <p>(1) 「あすチャレ！School」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：永尾嘉章氏</li> <li>・車いす陸上競技の選手としてパラリンピックに出場した永尾さんとの交流を通して、あきらめないことの大切さを学んだ。</li> <li>・車いすだと歩いている人よりも速いということを知り、障がいをもっている人でも工夫次第で様々なことができるということを知り、理解を深めた。</li> <li>・車いすリレー体験等を通して、パラスポーツについての理解を深めた。</li> </ul>



## (2) ボッチャについて学ぼう

- ① 子どもたちの関心が高かったボッチャについて、豊田市ボッチャ協会の方から学ぶ機会をもった。



- ② 道具や試合の進め方、練習方法、作戦について調べよう
- 教えていただいたことをもとに練習したり、技について調べたりして、自分たちでさらに追究した。
  - 作戦について話し合っ、チームで練習をした。
  - 休み時間にもボッチャに触れられるように、練習場をつくった。



## ③ 試合を楽しもう

- 豊田市ボッチャ協会の方に再び来ていただいて、練習した成果を披露した。
- ボッチャの選手に子どもが勝つ場面があり、ボッチャを存分に楽しむことができた。
- 車いすに乗っている方や義足の方とも楽しめたボッチャというスポーツのすばらしさに子どもたちは気づくことができた。



## ④ ボッチャってどんなスポーツなのかな

- これまでの体験を振り返り、ボッチャという競技のよさとして、ボールを投げるという簡単な競技であること、障がいのあるなしにかかわらず、誰にでも楽しめること、子どもが大人に勝つことができる面白さがあることを子どもたちは見つけた。

・ボッチャをもっと広めていきたいという願いを子どもたちは抱いた。

### 3 ボッチャを広めよう

(1) ボッチャのルールや進め方の分かりやすい伝え方を考えよう

- ・ボッチャを伝える相手を授業参観に来る保護者と設定した。
- ・これまでの経験を振り返りながら、ルール・技・やり方・楽しさに項目を分けて伝えた。
- ・より分かりやすくするために絵をかいたり、図を示したりと工夫を加えた。

(2) ボッチャを楽しんでもらおう

- ・保護者にボッチャについて伝え、一緒にボッチャを楽しんだ。
- ・「お父さんたちに勝った」と子どもたちはうれしそうだった。
- ・子どもと大人と一緒に楽しめることのよさを改めて、子どもたちが感じていた。



- ・5年生から「ボッチャを教えてください」という依頼があり、保護者からのアンケートを参考に、よりよい伝え方を目指して、子どもたちは準備に取り組んだ。
- ・5年生に教えられたことに自信をもち、また5年生と一緒に楽しめたことに、誰とでも楽しめるというボッチャのよさを改めて認識した。



## 6 主な成果

子どもたちにとって未知なる競技であったボッチャ。ボッチャと出会い、体験していく中でその面白さを味わった。味わうことで、もっと知りたい、もっと上手になりたい、もっとやってみたいという子どもたちの意欲が高まり、自ら考えて、活動する姿が見られた。

また、パラリンピアンである永尾嘉章さんや義足の方や車いすを利用している方も所属している豊田市ボッチャ協会との交流を通して、障がいをもつ方への理解を進めることができた。道具ややり方に工夫を加えれば健常者以上のことができることやあきらめずに取り組むことの大切さを学ぶことができた。

わたしは「あきらめないことを大切にしよ」とおもいました。ながお先生は  
 どうメダルをもていたけどあきらめないことをかえり、たからも分えた  
 おもたか、わたしもなんでもあきらめないようかんぱりす、車イスにのた  
 ときは、いがいとむずかしがたし、上手にすすめませんでした。そしとながお  
 先生はレーザーですごく速くはしてすごいとおもいました。こかいば  
 きていただきありがとうござりました。これかともかんぱ、こくたさい。

さらに、年齢や障がいの有無、性差に関わらず、誰とでも楽しめるという多様性を認めるボッチャのよさを見出したことや、そこから保護者に伝えたり5年生に教えたりしたことは、3年生の子どもたちにとって代えがたい経験となった。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>オリンピック・パラリンピックをより身近なものと子どもたちがとらえられるように、体験や実物に触れる機会を設定した。「あすチャレ! school」では、車いす陸上用のレーザーという車いすを目の当たりにしたり、全員の児童が車いす体験をしたりした。</p> <p>また、地元で活動する豊田市ボッチャ協会の方たちに協力いただいた。1回目ではなく、2回目の来校で試合をするという目標を設定することで、子どもたちがよりボッチャに関心を高められるようにした。</p> <p>子どもたちが教えられる側になるばかりではなく、保護者や5年生に教える側になることを設定することで、子どもたちがより主体的に活動することができた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>東京オリンピック・パラリンピックが延期されたことで、子どもたちの学習の導入時期とパラリンピックの開催が重なり、子どもたちは様々なパラリンピック競技を見ることができた。来年度以降はその機会がないため、より魅力的な導入の設定を考えていく必要がある。</p> <p>ボッチャの道具が学校に常備できておらず、今回は他校から借用した。ボッチャに気軽に触れられるようにするには、高価ではあるがボッチャセットを購入したい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>地元で活動するボッチャ協会とのつながりができた。ボッチャだけでなく、障がいをもつ方との交流もあり、大変価値のあるつながりである。福祉をテーマとした学習を続けていくことができると考える。</p> <p>また、ボッチャは誰でも楽しめる競技である。クラブ活動やレクリエーションとして活動していきたい。</p>